

## 児童学専攻

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 児童学について精深な学識と研究能力を有している。
- DP2 複合的な視点から、子どもに関わる今日的課題を見出し、それらを解決する方法を提案できる。
- DP3 児童学の社会的な役割を認識している。子どもの健全な発達と育成に関する課題をとらえ、自らの考えを表現できる。
- DP4 子どもへの深い理解と関心を示し、主体的に児童学を探求し、その成果を社会に還元しようとする態度を持つ。
- DP5 児童学に関する専門知識と実践的な技能を身につけている。
- DP6 豊かな表現力とコミュニケーション力を持って研究の成果を社会に伝えることができる。

## 児童学専攻

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 児童学に関する理論と研究方法を修得する講義形式の科目と、教員の指導を受けながら学生が各自の課題を追求する演習形式の科目をバランスよく置く。(DP 1、DP5)
- CP2 広域な視点と深い洞察力を培うために、心理学、保健学、文化・文学、教育学、社会学の5領域に関わる科目を揃え、対話や討論を多く取り入れた少人数制の授業を行う。(DP 2、DP 3、DP 4、DP 6)
- CP3 今を生きる子どもへの複合的な視点を確保するため、フィールドワークを重視する。研究課題に応じた自主的なリサーチワークを支援し、体験と理論をクロスオーバーさせる手法を学ぶ科目を置く。(DP 2、DP 3、DP 4)
- CP4 授業や修士論文中間報告会等を通じて、学生は研究発表の機会を得る。また修士課程における研究活動の集大成として、修士論文を執筆し、その内容を修士論文発表会で公表する。(DP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5、DP 6)

## 児童学専攻

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 子どもについての研究の重要性を認識する人。
- AP2 児童学についての基礎的な知識を修得した人。
- AP3 他者に共感する姿勢を持ち、物事を複眼的・相対的な視点でとらえ、分析的に把握できる人。
- AP4 子どもの幸福に寄与する研究に関心を持ち、研究の成果を社会に還元しようと志す人。
- AP5 論理的に思考し、的確な表現と方法で自分の考えを伝えることができる人。

上記 AP1 と AP2 は筆記試験によって、AP3～AP5 は口述試験及び提出書類によって評価する。

## 被服学専攻

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 被服学に関わる自然科学・人文科学・社会科学分野の高い専門性と深い学識を有する。
- DP2 専門的知識を統合して、グローバルな視点から、衣生活上の課題やニーズを発見でき、その解決を図ることができる。
- DP3 被服が人間生活のQOL向上に及ぼす役割を十分に理解し、研究成果を社会に還元しようとする高邁な意志と実現できる能力を持つ。
- DP4 被服に関わる専門家として必要な高度な知識や技術を獲得でき、その成果を社会に還元することができる。
- DP5 研究成果を日本語や英語により論理的に記述でき、的確な発表や討議を行うことができる。

## 被服学専攻

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 被服学に関わる自然科学・人文科学・社会科学の諸領域の専門科目から構成する。  
(DP1)
- CP2 各専門分野の知識や実践的な研究手法を修得するために、講義科目と演習科目を置く。(DP1、DP4)
- CP3 修士論文作成のための特別研究を置く。(DP1、DP4、DP5)
- CP4 講義科目、演習科目、特別研究は、少人数教育による双方向コミュニケーションを重視し、発表力、主体的に考える力、及び的確な判断力を育成し、新規性のある豊かな発想力を育む。(DP1、DP2、DP5)
- CP5 幅広い視野で被服学の知識やものづくり技術をとらえることができるように、学生の研究内容や関心事項に即して、学外の専門家による複数の特論を置く。(DP2、DP4)
- CP6 実験研究や調査研究を通して、実験や調査の仕方、解析方法、論文構成やまとめ方を修得することができる。(DP3、DP4)

## 被服学専攻

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 大学学部で学ぶ被服学に関連する基礎的な知識を身につけている人。
- AP2 自然科学・人文科学・社会科学の諸領域からなる「被服学」に関する十分な知識を有し、被服に関連する事象を科学的にとらえることができる人。
- AP3 自由な発想と柔軟な思考で、研究を遂行することのできる人。
- AP4 被服学を学修する意義を、人間生活、健康、社会、環境、持続可能な衣生活等の視点から、総合的にとらえることのできる人。
- AP5 課題を解明するために真摯に取り組むことができ、主体的に研究活動を行うことのできる人。
- AP6 被服学を探究し、その研究成果を人間生活のQOL向上に役に立て、社会に貢献するための論理的思考ができる人。

上記 AP1 と AP2 は筆記試験によって、AP3～AP6 は口述試験及び提出書類によって評価する。

## 生活経済専攻

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 経済学・家政学・政策科学等に関する十分な専門知識を持ち、それらを広範で多様な生活問題の解決に応用することができる。
- DP2 生活そのものが持つ総合性を理解し、経験と理論を発展的に結合させることができる。
- DP3 研究者と市民という視点に立って、生活を取りまく現代社会の諸問題と政策課題を追究できる。
- DP4 生活課題の構造を広い視野で多面的・総合的にとらえ、自らの見解を形成できる。
- DP5 時代の変動に伴う新しい生活課題を主体的に設定する能力を身につけ、必要な専門知識を高めていく努力をし、問題を解決しようとする姿勢を持つ。
- DP6 研究テーマの社会的意義を自覚し、その成果を地域や社会に還元しようとする態度を持つ。
- DP7 論理的に研究の構成を組み立て、学術的表記を用いて論文を作成することができる。
- DP8 研究課題に適した調査・分析手法を修得し、活用できる。
- DP9 的確な表現力、コミュニケーション力をもって、研究成果を発表することができる。

## 生活経済専攻

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 広い視野で経済学・家政学・政策科学等の基礎と応用を修得できるよう、特別研究以外の全科目をセメスター制（2単位）とする。（DP1、DP4）
- CP2 理論的アプローチにより問題がより明確に記述・分析できるとともに、生活の場での問題提起や経験的知識と理論を発展的に結合できるように、多くの科目で特論と演習の両方を置く。（DP2、DP3）
- CP3 知識・理解に基づいた客観的・論理的な思考の育成をはかるトレーニングができるよう、少人数の演習科目を置く。（DP4、DP7）
- CP4 多面的に問題の構造をとらえ、複合的視野で考察することができるよう、全教員によるオムニバス形式の授業を設ける。（DP2、DP4）
- CP5 個々の学生の関心テーマにそった専門家を招聘する特別講義を複数置く。（DP1、DP5）
- CP6 学生の興味・関心と研究テーマの社会的意義・目的が結びつくよう、個別指導を行う。（DP5、DP6）
- CP7 入学時より、それぞれの学生の進捗状況の把握がなされ、自主的・継続的な学修ができる支援体制をとる。（DP5、DP6）
- CP8 論文作成の技術や論理的思考を表現する手法を深めるため、特別研究の指導を行う。（DP7、DP8）
- CP9 修士論文では2回の発表会を開催し、プレゼンテーションスキルの向上をはかる。（DP9、DP7）
- CP10 家庭科又は社会科の中学校教諭専修免許状、高等学校教諭専修免許状を希望する学生には、教員としての専門性を高める指導を行う。（DP1、DP9）

## 生活経済専攻

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 経済学、家政学、政策科学あるいはその複合領域における大学学部で修得する知識を  
発展させ、生活問題の解明に取り組むことができる人。
- AP2 家庭、地域、企業、社会での経験を活かし、理論的アプローチを学ぶことで、理論と  
経験を結びつけることができる人。
- AP3 生活問題の原因・背景とその結果や影響を、社会との関係で構造的に考えることがで  
きる人。
- AP4 生活をとりにくく現代社会の諸問題と政策課題を追究することができる人。
- AP5 生活に関わる課題とその解決を、広い視野で学ぶ意欲のある人。
- AP6 家庭、地域、企業、社会における経験を通して、現代社会の課題を発見し、その解決  
方法を考察できる人。
- AP7 生活に関わる問題解決のための研究を志す人。
- AP8 論理的に物事を説明したり、記述したりする努力ができる人。
- AP9 市民活動・消費生活・職業生活に関連した知識を問題解決的に活かすスキルアップを  
目指す人。
- AP10 専門知識を広い視点で深く伝えられる教員を目指す人。

本専攻は、社会人にも広く門戸を開いている。上記 AP1～AP4 は筆記試験によって、  
AP5～AP10 は口述試験及び提出書類によって評価する。